

## 上代形容詞の範囲の再検討

村田 菜穂子\*<sup>1</sup> 前川 武\*<sup>2</sup>A Reconsideration of the Scope of Adjectives  
in Ancient JapaneseNahoko Murata\*<sup>1</sup> Takeshi Maekawa\*<sup>2</sup>

## キーワード

形容詞、上代、万葉集

## 1. はじめに

これまで上代から近世に亘る日本語形容詞について調査を進めてきたが、その発端は、上代資料・八代集・中古散文作品から形容詞を採取し、各形容詞の語構成に関する語の質的分析、ならびに各形容詞がどの資料でどのくらい使用されているかという数量的な分析を行い、その結果を拙著『形容詞・形容動詞の語彙論的研究』<sup>(注1)</sup>において「古代語形容詞の語構成」として公表したことである。

当初拙著において対象とした資料は以下のとおりである。

## 【上代資料】

『時代別国語大辞典上代編』<sup>(注2)</sup>に立項されている形容詞のうち、東歌・防人歌に使われている東国語方言の語や複合形容詞中にのみその存在が確認される語を除き、万葉集・古事記（仮名書き部分）・日本書紀（同）・風土記（同）・続日本紀宣命・祝詞に用例のあるものを上代形容詞として認めた。

## 【八代集】

『古今集』『後撰集』『拾遺集』『後拾遺集』『金葉集』『詞花集』『千載集』『新古今集』

## 【中古散文作品】

『竹取物語』『土佐日記』『伊勢物語』『平中物語』『大和物語』『多武峯少将物語』『篁物語』『宇津保物語』『蜻蛉日記』『落窪物語』『和泉式部日記』『枕草子』『源氏物語』『紫式部日記』『堤中納言物語』『夜の寝覚』『浜松中納言物語』『更級日記』『狭衣物語』『大鏡』『讃岐典侍日記』『とりかへばや物語』

\*1 むらた なほこ：大阪国際大学基幹教育機構教授（2019.12.6受理）

\*2 まえかわ たけし：大阪国際大学短期大学部教授

この【上代資料】で定義した上代形容詞の認定については、当時解決し得ない問題を保留にしたまま進めざるを得ない状況であったこと、その後、相次いで万葉集の索引が刊行されたりコーパスが公表されたりして状況が一変したこと、これらのことから上代形容詞の範囲の再検討を行う必要があることを前稿<sup>(注3)</sup>で述べた。

そして、従来の定義に沿って収集した上代形容詞（以後「既存のデータ」と言う）をその後刊行された2つの万葉集索引<sup>(注4)</sup>と『日本語歴史コーパス 奈良時代編』<sup>(注5)</sup>に出現する形容詞と比較することでその差異を明らかにし、上代形容詞の範囲の再検討に向けての問題提起を行った。

その後、前稿での問題提起を受けて上代形容詞の範囲の再検討を行い、検討結果がまとまったことから、本稿にてそれを公表するものである。

手順としては、まず、再定義した上代形容詞の範囲を記し、次に、既存のデータに追加したもの・既存のデータから削除したものを示し、最後に新たな定義に従って再編した上代形容詞を一覧表の形で提示することとする。

## 2. 上代形容詞の範囲（再定義）

上代形容詞の範囲については、前稿での問題提起を基に蜂矢真郷氏の論考<sup>(注6)</sup>を参考にしながら次のように再定義した。

第一に、大前提として、『時代別国語大辞典上代編』（以下『上代編』と言う）に見出し語として立項されている形容詞を取り挙げることとする。

第二に、『上代編』に「東国語形」とあるものは取り挙げないこととする。

第三に、『上代編』に見出し語として立項されている形容詞でも、上代の文献に例がないものについては取り挙げないこととする。

第四に、『上代編』に見出し語として立項されていない形容詞でも、上代の文献に例があるものについては取り挙げることとする。

## 3. 既存のデータに追加したもの

ここでは、2の定義に基づき既存のデータに追加したものを示す。

(1) 『上代編』に見出し語として立項されているが見落とされていたもの

### ①動詞の連用形+形容詞

- ・おもひぐるし（思苦）（万葉集 巻14・3481）

### ②名詞+形容詞

- ・ころなし（心無）（万葉集 巻1・17、71、巻10・2226、巻12・3122、巻13・3242、巻14・3463、巻15・3784）
- ・ことたし（万葉集 巻14・3482）

### ③その他

- ・あたし（他）（万葉集 巻10・1947、巻11・2451）
- ・ありがほし（有欲）※（万葉集 巻6・1059）
- ・いたぶらし（甚振）（万葉集 巻14・3550）

- ・うらもとなし（万葉集 巻14・3495）
  - ・しりひかし（後引）（万葉集 巻14・3431）
  - ・なやまし（悩）（万葉集 巻14・3557）
  - ・にはし（急・俄）（万葉集 巻20・4389）
  - ・ほとほとし（殆）（万葉集 巻7・1403）
  - ・まきはし（万葉集 巻14・3407）
  - ・みがほし（見欲）※（万葉集 巻3・324、382、巻6・907、910、巻10・2284、2327、巻11・2512、巻17・3985、巻18・4111、4112、巻19・4169、4170）
  - ・ゆくりなし（率尔・卒爾）（万葉集 巻10・2284、巻11・2521）
- ※ありがほし、みがほしについては、拙著においてその成立の段階からひとまず考察の対象から外したが、今回は対象とすることとした。

(2) 『上代編』に見出し語として立項されていないが『万葉集』に例があるもの

①動詞の連用形+形容詞

- ・あひがたし（逢難）（万葉集 巻4・712、783、巻10・1947、巻12・2856、3029、3177）
- ・あへがたし（堪難）（万葉集 巻4・537）
- ・ありよし（有良）（万葉集 巻6・1059）
- ・うつろひやすし（移易）（万葉集 巻4・583、657、巻12・3074）
- ・えがたし（得難）（万葉集 巻14・3573）
- ・かたまちがたし（片待難）（万葉集 巻9・1763）
- ・かたりよらし（語宜）（万葉集 巻14・3446）
- ・さきがたし（咲難）（万葉集 巻4・788）
- ・さもらひがたし（候難）（万葉集 巻8・1524）
- ・すみあし（住悪）（万葉集 巻15・3748）
- ・すみよし（住良）（万葉集 巻6・1047、1059、巻20・4419）
- ・たゆたひやすし（猶預易・揺蕩易）（万葉集 巻12・3031）
- ・つきよらし（着宜）（万葉集 巻14・3435）
- ・とけやすし（解易）（万葉集 巻14・3483）
- ・まきがたし（巻難）（万葉集 巻3・409、巻4・729）
- ・まちがたし（待難）（万葉集 巻7・1373、巻11・2503）
- ・まちよし（待良）（万葉集 巻4・484）
- ・むしためがたし（生留難）（万葉集 巻13・3227）
- ・ゆきあし（行悪）（万葉集 巻15・3728、3729）
- ・ゆきすぎがたし（行過難）（万葉集 巻2・106）
- ・ゆきよし（行良）（万葉集 巻15・3728）

②名詞+形容詞

- ・いへごひし（家恋）（万葉集 巻15・3641）

- ・いへどほし（家遠）（万葉集 巻11・3793、巻15・3715）
- ・いろぶかし（色深）（万葉集 巻11・2624、巻20・4424）
- ・うらもなし（心無）（万葉集 巻12・2968、3180、巻13・3336、3339、巻14・3443）
- ・たびまねし（度遍）（万葉集 巻4・646、755、巻19・4254）
- ・つれなし（由縁無）（万葉集 巻10・2247）
- ・つれもなし（由縁無）（万葉集 巻2・167、187、巻3・460、巻4・717、巻6・928、巻13・3326、3341、3343、巻19・4184、4198）
- ・なだかし（名高）（万葉集 巻13・3234）
- ・はださむし（肌寒）（万葉集 巻20・4351）
- ・はまぎよし（浜清）（万葉集 巻15・3632）
- ・やまだかし（山高）（万葉集 巻6・1052、巻7・1373）

③その他

- ・うはへなし（万葉集 巻4・631、692）
- ・ことはかもなし（万葉集 巻8・1654）
- ・とこめづらし（常珍）（万葉集 巻11・2651）
- ・まうらがなし（真心悲）（万葉集 巻2・189）
- ・まかなし（真愛）（万葉集 巻9・1743、巻14・3567、巻20・4413）
- ・まけながし（真日長）（万葉集 巻10・2016、2073、巻11・2814、2815）

(3) 『上代編』に見出し語として立項されていないが『万葉集』以外に例があるもの

- ・いへじ（家）（続日本紀宣命 25詔）
- ・おもじ（重）（続日本紀宣命 25詔）
- ・そそろけし（澁）（新訳華嚴経音義私記）

#### 4. 既存のデータから削除したもの

ここでは、2の定義に基づき既存のデータから削除したものを示す。

- ・いさぎよし（潔）（上代の文献に例がない）
- ・いろぐわし（色妙）（「しきたへの」と読む説を採用）
- ・うしろかるし（後軽）（上代の文献に例がない）
- ・うたがはし（疑）（上代の文献に例がない）
- ・うやなし（無礼）（上代の文献に例がない）
- ・おここし（沈毅）（上代の文献に例がない）
- ・かたなし（穢陋）（上代の文献に例がない）
- ・こはし（強）（上代の文献に例がない）
- ・さがなし（不祥・悪）（上代の文献に例がない）
- ・すがし（清）（上代の文献に例がない）
- ・つだし（怯）（上代の文献に例がない）
- ・つたなし（怯・拙）（上代の文献に例がない）

- ・つつがなし（無恙・無事）（上代の文献に例がない）
- ・なまし（生）（上代の文献に例がない）

## 5. 再編した上代形容詞の一覧

2の定義に従って再編した上代形容詞を別表に一覧表として示す。  
凡例は以下のとおりである。

### [1] 見出し語の配列

歴史的仮名遣いにより五十音順に配列する。

### [2] 見出し語形の統一

意味の違いに関係しない読み方・発音の違いは同一語とみなし合併して採る。同一語・別語の認定は『古語大事典』〔小学館〕・『日本国語大辞典』〔小学館〕に拠る。

#### ①子音交替形または母音交替形

例：ねむたし⇔ねぶたし（m⇔b）

#### ②撥音の表記に関わるもの

例：やごとなし⇔やむごとなし

#### ③促音を挿入したもの

例：にっくし⇔にくし

#### ④その他

例：ゆきがたし⇔いきがたし

### [3] 複合語の扱い

名詞+形容詞（例…よふかし・しふしんふかし）や動詞連用形+形容詞（例…をりがたし・はひりにくし）等は切り離さず複合的な単位として認め、一語として扱う方針によって形容詞を選出した。これは、形容詞の造語法として複合語の産出が新語形成の一端を担っている事実を重視したことに拠る。

### [4] 漢字

各形容詞の主な意味を表すために適宜振ったもの。

### [5] 活用

各見出し語がそれぞれ何活用の形容詞であることを示したもの。

### [6] 先行研究

蜂矢氏の論文の中でどのように扱われているかを示したもので、各印の意味は次のとおりである。

無印：『上代編』に項があり、上代に確例があるもの

☆印：『上代編』に項がないもので、上代に確例があるもの

◆印：『上代編』に項があり、確例が平安初期・中期初めに下るもの

×印：上代語として認定されていないもの

## 6. おわりに

今回、前稿での問題提起を基に蜂矢氏の論考を参考にしながら上代形容詞の範囲の再検討を行ったのであるが、蜂矢氏の考える上代語の範囲と筆者の考えるそれとの間には相違がある。それは、蜂矢氏が上代の形容詞の対象とする範囲に「『上代編』に項があり、平安初期・中期初めに確例があるもの」を加えている点である。蜂矢氏はその理由として、筆者を含む数名の研究者が特定の動詞、形容詞、形容動詞等の異なった観点から、いずれも『宇津保物語』あたりを境に様相に大きな変化が見られることを指摘していることを挙げ、平安初期・中期初めまでを上代語の範囲としているのであるが、上代に用例がある形容詞と用例が平安初期・中期初めまで下る形容詞との間に差異が無いか否かを検証されていない。

今後は、上記の点を明らかにする中、上代語と中古語との関係を再検証していきたい。

注1 村田菜穂子著 [2005・11 和泉書院]。

注2 上代語辞典編修委員会編 [1967・12 三省堂]

注3 「上代形容詞の範囲の再検討に向けて」(『大阪国際大学紀要国際研究論叢』33-1 [2019・10])

注4 古典索引刊行会編『萬葉集電子総索引 CD-ROM版』[2009・12 塙書房]、宮島達夫編『萬葉集巻別対照分類語彙表』[2015・1 笠間書院]

注5 国立国語研究所 (2017) 『日本語歴史コーパス 奈良時代編 I 万葉集』  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/chj/nara.html](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/chj/nara.html) (2019年12月5日確認)

注6 『古代語形容詞の研究』総論編第一章第四節 [2014・5 清文堂出版]、「上代を中心とするシク活用形容詞の語基と語幹」[『国語と国文学』96-5、2019・5 明治書院]

上代形容詞の範囲の再検討

上代形容詞一覧

No.	見出し語	漢字	活用	蜂矢氏
1	あかし	明	ク	
2	あからけし	赤	ク	
3	あきらけし	明	ク	
4	あさし	浅	ク	◆
5	あし	悪	シク	
6	あたし	他	シク	×
7	あたたけし	暖・温	ク	◆
8	あたらし	惜	シク	
9	あづきなし		ク	
10	あつし	厚・敦	ク	◆
11	あつし	暑・熱	ク	◆
12	あひがたし	逢難	ク	×
13	あへがたし	堪難	ク	×
14	あまねし	遍・普	ク	◆
15	あやし	靈異・奇・怪	シク	
16	あらし	荒・疎	ク	
17	あらたし	新	シク	◆
18	ありがたし	有難	ク	
19	ありがほし	有欲	シク	
20	ありよし	有良	ク	×
21	あをし	青	ク	
22	いかし	巖	シク	
23	いきづかし	気衝	シク	
24	いきどほろし	罔・憤	シク	
25	いそし	勤	シク	
26	いたし	痛・甚	ク	
27	いたはし	勞	シク	
28	いたぶらし	甚振	シク	
29	いちしろし	灼然	ク	
30	いつくし	巖	シク	
31	いつつし		シク	
32	いとはし	厭	シク	
33	いとほし	勞・愛	シク	
34	いふかし	不審	シク	
35	いぶせし	鬱	ク	
36	いへごひし	家恋	シク	×
37	いへじ	家	シク	☆
38	いへどほし	家遠	ク	×
39	いやし	賤・卑	シク	
40	いらなし	楚・苛	ク	
41	いろぶかし	色深	ク	×
42	うし	愛	ク	
43	うすし	薄	ク	
44	うただぬし		シク	
45	うただのし		シク	
46	うつくし	愛・美	シク	
47	うつし	現・顯	シク	
48	うつろひやすし	移易	ク	×

国際研究論叢

No.	見出し語	漢字	活用	蜂矢氏
49	うはへなし		ク	☆
50	うまし	旨・甘・美・味	ク	
51	うむがし		シク	
52	うやうやし	恭	シク	
53	うらがなし	心悲	シク	
54	うらぐはし	心妙	シク	
55	うらごひし	心恋	シク	
56	うらごほし	心恋	シク	
57	うらめし	恨・悵	シク	
58	うらもとなし		ク	
59	うらもなし	心無	ク	×
60	うらわかし	若	ク	
61	うるはし	麗・美	シク	
62	うれし	嬉・歡	シク	
63	うれたし	慨	ク	
64	えがたし	得難	ク	×
65	えし	宜・吉・善	ク	
66	おぎろなし	鴛	ク	
67	おそし	遲・鈍	ク	
68	おだひし	穩	シク	
69	おとだかし	音高	ク	
70	おどろおどろし		シク	
71	おなじ	同	シク	
72	おほし	多・大	ク	
73	おほつかなし	覚束無	ク	
74	おほほし	鬱	シク	
75	おもし	重	ク	◆
76	おもし	重	シク	☆
77	おもしろし	面白	ク	
78	おもひがなし	思悲	シク	
79	おもひぐるし	思苦	シク	
80	おもほし	思	シク	
81	おやじ	同	シク	
82	およし		シク	
83	かからはし	懸	シク	
84	かぐはし	香	シク	
85	かぐろし	黒	ク	
86	かしこし	恐・畏・賢	ク	
87	かそけし		ク	
88	かたし	固・堅	ク	
89	かたし	難	ク	
90	かたじけなし	辱・忝	ク	
91	かたまちがたし	片待難	ク	×
92	かたりよらし	語宜	シク	×
93	かなし	悲・哀・愛	シク	
94	かほよし	端正・麗	ク	
95	かやすし	易	ク	
96	かゆし	癩・癢	ク	
97	からし	辛・鹹・酷	ク	

上代形容詞の範囲の再検討

No.	見出し語	漢字	活用	蜂矢氏
98	かるし	軽	ク	
99	ききよし	聞好	ク	
100	きたなし	汚穢・濁・穢	ク	
101	きほし	欲服	シク	
102	きよし	清	ク	
103	きらきらし	端正	シク	◆
104	きはし		シク	
105	くさぶかし	草深	ク	◆
106	くし	奇	シク	
107	くすし	奇	シク	
108	くすばし	奇	シク	
109	くはし	妙・細・詳	シク	
110	くまくまし	隈隈	シク	
111	くやし	悔	シク	
112	くらし	暗	ク	◆
113	くるし	苦	シク	
114	くろし	黒	ク	
115	けがらはし	汗穢・穢	シク	
116	けし	異・怪	シク	
117	けながし	日長	ク	
118	けやすし	消安	ク	
119	こきだし		シク	
120	ごごし		シク	
121	こころいたし	心痛	ク	
122	こころがなし	心悲	シク	
123	こころぐし		ク	
124	こころぐるし	心苦	シク	
125	こころこひし	心恋	シク	
126	こころなし	心無	ク	
127	こだかし	木高	ク	
128	こちたし	言痛・事痛	ク	
129	ことたし	言痛・事痛	ク	
130	こととし	言急	ク	
131	ことなし	事無	ク	
132	ことはかもなし		ク	×
133	こひし	恋	シク	
134	こひたし	恋痛	ク	
135	こほし	恋	シク	
136	さかし	賢	シク	
137	さがし	険・峻	シク	
138	さきがたし	咲難	ク	×
139	さし	狭	ク	
140	さとし	聡	ク	◆
141	さびし	寂・淋	シク	
142	さぶし	寂・淋	シク	
143	さまねし	数多	ク	
144	さむし	寒	ク	
145	さもらひがたし	候難	ク	×
146	さやけし	清・分明	ク	
147	しけし	穢・蕪	シク	

国際研究論叢

No.	見出し語	漢字	活用	蜂矢氏
148	しげし	繁・茂	ク	
149	しこめし	醜	ク	
150	したがたし		ク	
151	したごころよし	下心吉	ク	
152	したゑまし	下咲	シク	
153	しづけし	静	ク	
154	しぶし	渋	ク	
155	しりひかし	後引	シク	
156	しるし	知・灼・著	ク	
157	しろし	白	ク	
158	すがすがし	清清	シク	
159	すかなし		ク	
160	すくなし	少	ク	
161	すずし	冷・涼	シク	
162	すべなし	術無	ク	
163	すみあし	住悪	シク	×
164	すみよし	住良	ク	×
165	すむやけし	急	ク	
166	せばし	狭	ク	
167	そがそがし		シク	
168	そそろげし	渋	ク	☆
169	たかし	高	ク	
170	たぎたぎし		シク	
171	たけし	武・猛	ク	
172	たしけし	確	ク	
173	たたはし	偉	シク	
174	たづがなし	方便無	ク	
175	たづたづし		シク	
176	たどほし	遠	ク	
177	たのし	楽	シク	
178	たのもし	頼	シク	
179	たびまねし	度遍	ク	×
180	たひらけし	平	ク	
181	たふとし	貴・尊	ク	
182	たやすし	輒・容易	ク	
183	たゆし	弛・懈	ク	◆
184	たゆたひやすし	猶預易・揺蕩易	ク	×
185	たよわし	手弱	ク	
186	ちかし	近	ク	
187	ちひさし	小	ク	◆
188	つからし	疲	シク	
189	つきよらし	着宜	シク	×
190	つねなし	常無	ク	
191	つよし	強	ク	
192	つらし	辛	ク	
193	つれなし	由縁無	ク	×
194	つれもなし	由縁無	ク	×
195	ときじ	不時・非時	シク	
196	とけやすし	解易	ク	×

上代形容詞の範囲の再検討

No.	見出し語	漢字	活用	蜂矢氏
197	とこめづらし	常珍	シク	×
198	とし	利・敏・疾	ク	◆
199	とほし	遠	ク	
200	とほしろし	大	ク	
201	とほとほし	遠遠	シク	
202	とほながし	遠長	ク	
203	ともし	乏	シク	
204	ながし	長	ク	
205	ながながし	長長	シク	×
206	なぐし	和	シク	
207	なぐはし	名細	シク	
208	なし	無	ク	
209	なだかし	名高	ク	×
210	なつかし	懐	シク	
211	なみたぐまし	涙	シク	
212	なめし	無礼	ク	
213	なやまし	惱	シク	
214	にくし	憎	ク	
215	にぐろし	土黒	ク	
216	にこし	和・柔	ク	
217	にたし		シク	
218	にはし	急・俄	シク	
219	ぬるし	温	ク	
220	ねたし	嫌・妬	ク	
221	はし	愛	シク	
222	はださむし	肌寒	ク	×
223	はづかし	恥	シク	
224	はなぐはし	花細	シク	
225	はまぎよし	浜清	ク	×
226	はやし	早・速	ク	
227	はるけし	遙	ク	
228	ひさし	久	シク	
229	ひねひねし	陳陳・古古	シク	
230	ひろし	広	ク	
231	ふかし	深	ク	
232	ふとし	太	ク	
233	ふるし	古・旧	ク	
234	ほし	欲	シク	
235	ほそし	細	ク	
236	ほとほとし	殆	シク	☆
237	まうらがなし	真心悲	シク	☆
238	まかなし	真愛	シク	×
239	まきがたし	卷難	ク	×
240	まきはし		シク	
241	まぐはし	目細	シク	
242	まけながし	真日長	ク	☆
243	まそし	雅	ク	
244	またし	全・完	ク	
245	まだし	未	シク	

国際研究論叢

No.	見出し語	漢字	活用	蜂矢氏
246	まちかし	間近	ク	
247	まちがたし	待難	ク	×
248	まちよし	待良	ク	×
249	まづし	貧・貧窮	シク	◆
250	まとほし	間遠	ク	
251	まねし	数多	ク	
252	みがほし	見欲	シク	
253	みじかし	短	ク	
254	みすし	囂	ク	
255	みにくし	醜	ク	
256	みほし	欲見	シク	
257	むがし	幸	シク	
258	むしためがたし	生留難	ク	×
259	むつまし	親・睦	シク	◆
260	むなし	空・虚	シク	
261	めぐし	愍	ク	
262	めだし	愛	シク	
263	めづらし	珍	シク	
264	もし	茂	ク	
265	ものがなし	物悲	シク	
266	ものこひし	物恋	シク	
267	もろし	脆	ク	
268	やさし	恥・優	シク	
269	やすし	安・易	ク	
270	やすらげし	安	ク	
271	やまだかし	山高	ク	×
272	ゆきあし	行悪	シク	×
273	ゆきすぎがたし	行過難	ク	×
274	ゆきよし	行良	ク	×
275	ゆくりなし	率尔・卒爾	ク	×
276	ゆたけし	寛・広	ク	
277	ゆゆし	齋忌・忌	シク	
278	ゆらし		ク	
279	よし	良・好・善	ク	
280	よらし	宜・良	シク	
281	よろこほし	喜・悦	シク	
282	よろし	宜	シク	
283	よわし	弱	ク	◆
284	わかし	若	ク	
285	わびし	侘	シク	
286	われじ	我・吾	シク	
287	ゑまはし	笑	シク	
288	をし	惜・愛	シク	
289	をし	雄雄	シク	